

## 北海道大学所在地の先住民族に対する敬意の表明（概要版）

北海道大学のあるこの土地では、先住民族であるアイヌが長きにわたり、暮らしと生業を営んできました。札幌キャンパスを流れる石狩川支流のサクシュコトニ川からは、17世紀以前の生活の痕跡が確認されています。また、明治初期には、今日のキャンパス構内にあたる場所に、アイヌの人々が暮らすコタン（集落）がありました。

しかし、明治の初めに和人にとって「開拓」と呼ばれた事業が進められたことで、アイヌ民族はこの地を離れざるを得なくなりました。本学には、アイヌにルーツを持つ学生や教職員が学び、働いてきましたが、その歴史的事実は長く語られることがありませんでした。

北海道大学は、アイヌ民族がこの地で長い歴史と文化的なつながりを持ってきたことに深く敬意を表します。大学の使命として、アイヌにルーツを持つ構成員が安心して学び、働ける環境を整えるとともに、学内外のアイヌ民族と大学構成員の共生に向けた取り組みを進めます。

2026年3月 北海道大学